

桜蔭俳話会

第九十九回通信句会 結果

(平成二十二年秋 選句八句、特選には◎を付ける)

- | | | | | | |
|------|---|-----|------|------------------|-----|
| 1点 | 湯あがりの夜にくしやみ出る初秋かな | 眞三 | 11点◎ | 秋深し己が余生を診る老医 | 与史 |
| 5点 | 夫の咳一つきこえて秋の夜 | 文枝 | 1点 | 黄の花の慇いなく咲く秋日和 | 幸枝 |
| 1点 | 花終えてすぐもみずれる夏椿 | 忠夫 | 2点① | 秋手入庭師ら集ふ昼餉かな | 秀一 |
| 7点 | 国旗掲ぐる家一つなし文化の日 | 与史 | 5点① | 寒露なり風呂の温度を二度上げる | 貞勝 |
| 4点 | 迷ひ込む路地にのつぼの花紫苑 | 友子 | 4点◎ | 小春日や真綿ちぎりて天空に | 幸枝 |
| 10点◎ | 鉢物を移す軍手やそぞろ寒 | 深水 | 4点 | 名月もスカイツリーに寄り添ひて | 与史 |
| 3点 | 朝顔の名残りの青や色冴ゆる | 幸枝 | 2点① | 庭先に前ぶれもなく今朝の秋 | 文枝 |
| 9点 | ほしもののからり乾きぬ鴟高音 | ヤエ子 | | 栗御飯食べると太ると嘆く夫 | 美紀子 |
| 4点 | 大刀魚は竹光の照耀始まる | 貞勝 | 1点 | 夜景見つ汽車道帰る秋深し | 眞三 |
| 2点 | 汐人や鱈の名に未だ遠き群れ | 秀一 | 2点 | 駆け上る猫封じ込め障子張り | 幸 |
| 3点① | 可愛らしい笑顔に募金の赤い羽根 | 美紀子 | 13点◎ | 一病も話の種や夜長し | 深水 |
| 2点① | 秋の風いつも何か追いかけて | みさ | 10点 | 大根干す岬の空を全開に | 梅乃 |
| 4点 | 同階の人に出会ひし月見かな | 守 | 2点 | 初雪は富士の北陵白く染め | 忠夫 |
| | 長き夜を繰り広げけり項羽と劉邦 | 幸 | 3点 | 秋苑や尖りしもの見あたらす | 秀一 |
| 3点 | 午前二時月光入れし旅枕 | 梅乃 | 3点① | 草の花寝釈迦のやうにホームレス | 守 |
| 5点① | 秋蝶の孤影たゆたう日射かな | 深水 | | 「夕焼け」のオルゴール響く落葉道 | ヤエ子 |
| 6点◎ | 鹿の声水車は水を舐かせて | 貞勝 | 5点 | 瀨峽の奇岩のあたり紅葉りぬ | 友子 |
| 14点◎ | 虫時雨闇やわらかくなりにつけり | みさ | 6点 | つくづくと鳴き落蟬となりにけり | みさ |
| | 遠 ^お ち近 ^ち に鳩啼き交わす秋の声 | 忠夫 | | 君忍び砂をかむよな秋の風 | 正子 |
| 2点 | 秋雲に乗つて聞こえる汽笛かな | 幸 | 1点 | クリーンデイ心わくわく落ち葉焚き | 正子 |
| 4点 | 赤い羽根元気なお礼に笑みあふれ | 美紀子 | 3点 | 石ひとつ水面にゆれる里の秋 | 正子 |
| 2点 | 古民家の隅の馬小屋ちろろ鳴く | 友子 | | | |
| 3点 | 秋澄むやパラセーリングゆらりゆら | ヤエ子 | | | |
| 2点 | 秋刀魚焼く己の脂で身を焦がす | 梅乃 | | | |
| 2点 | コスモスの花ゆれゆれて片思い | 文枝 | | | |
| 4点 | 鴟高音自白調書の覆る | 守 | | | |
| 4点 | 雨なれど今を盛りと虫の夜 | 眞三 | | | |

(*一名の方の選句に特選◎がありませんでした)

得点順

十四点

④ 虫時雨闇やわらかくなりにつけり 小川名みさ

十三点

③ 一病も話の種や夜長し 瀬戸 溪水

十一點

② 秋深し己が余生を診る老医 平井 与史

十点

② 鉢物を移す軍手やそぞろ寒 瀬戸 溪水

大根干す岬の空を全開に 小川名梅乃

九点

ほしもののからり乾きぬ 鴫高音 岩野ヤエ子

七点

国旗掲ぐる家一つなし文化の日 平井 与史

六点

② 鹿の声水車は水を歩かせて 野上 貞勝

つくづくと鳴き落蟬となりにけり 小川名みさ

五点

① 秋蝶の孤影たゆたう日射かな 瀬戸 溪水

① 寒露なり風呂の温度を二度上げる 野上 貞勝

瀬峡の奇岩のあたり紅葉りぬ 藤本 友子

夫の咳一つきこえて秋の夜 安沢 文枝

四点

② 小春日や真綿ちぎりて天空に 桜井 幸枝

迷ひ込む路地にのつぼの花紫苑 藤本 友子

太刀魚は竹光の照^{はり}始まる 野上 貞勝

同階の人に出会ひし月見かな 増田 守

赤い羽根元気なお礼に笑みあふれ 青木美紀子

鴫高音自白調書の覆る 増田 守

雨なれど今を盛りと虫の夜 岩崎 眞三

明月もスカイツリーに寄り添ひて 平井 与史

(以下 省略)